

明石春浦先生書

明石幸子書

(杜審言^{としんげん})



条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

山晴石路香

(李建勳)

山晴れて石路香ばし

雲の散じた雨後の山は石の小路までが香ばしい

細泉斜映池荷色

(魏商介)

細泉斜に映ず池荷の色。
密葉深く藏す好鳥の聲。

泉はほそぼそと流れて荷葉を映し、樹葉は茂りて鳥の聲をも漏さぬほどである。

密葉深藏好鳥聲

尋南溪常道人隱居

(劉長卿)

南溪の常道人が隱居を尋ね

劉長卿

一路經行處

莓苔見履痕

一路經行する處 莓苔 履痕を見る

白雲依靜渚

青草閉閑門

白雲 靜渚に依り 青草 閑門を閉す

過雨看松色

隨山到水源

雨過ぎて 松色を看 山に随つて 水源に到る

溪花與禪意

相對亦忘言

溪花と禪意と 相對して亦た言を忘る

國上山松風涼し

越え來れば 山時鳥

をちこちに鳴く

(良寛)

半紙部規定課題A

7月25日正午必着

陽潮
多満
夕

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

7月25日正午必着

行書

潮満夕陽多

隸書

潮満夕陽多

明石春浦先生書

草書

潮満夕陽多

行草書

潮満夕陽多

呉の地を遊歴し 更に越の地方に行き ただ風まかせ 波まかせに往来する
 またも貴方をお送りするのだが 春の草の茂るのをどうすればよいのでしょうか
 山の頂は明るく まだ雪が残り 潮は満ちて いっぱいに夕陽の日ざし
 いまものこる季子の祠廟 舟をとめて ちょっと立ち寄られるよう

送韓司直

皇甫冉

游吳還適越

來往任風波

復送王孫去

其如芳草何

山明殘雪在

潮滿夕陽多

季子留遺廟

停舟試一過

韓司直を送る

呉に遊び 還た越に適き

來往 風波に任す

復た王孫を送り去る

其れ芳草を如何せん

山明らかにして 殘雪在り

潮満ちて 夕陽多し

季子 遺廟を留む

舟を停めて 試みに一たび過

らんことを

(出典)
 朝日新聞社刊
 「三体詩」下より

東舟而就陸
 知事而野
 外山綿葛
 花間鳥滑稽
 脅驢當不借
 陷酒入偏提
 汗漫亦殊樂
 誰為七聖迷
 元璐

舍舟而就陸

譬若解連雞

野外山綿葛

花間鳥滑稽

脅驢當不借

陷酒入偏提

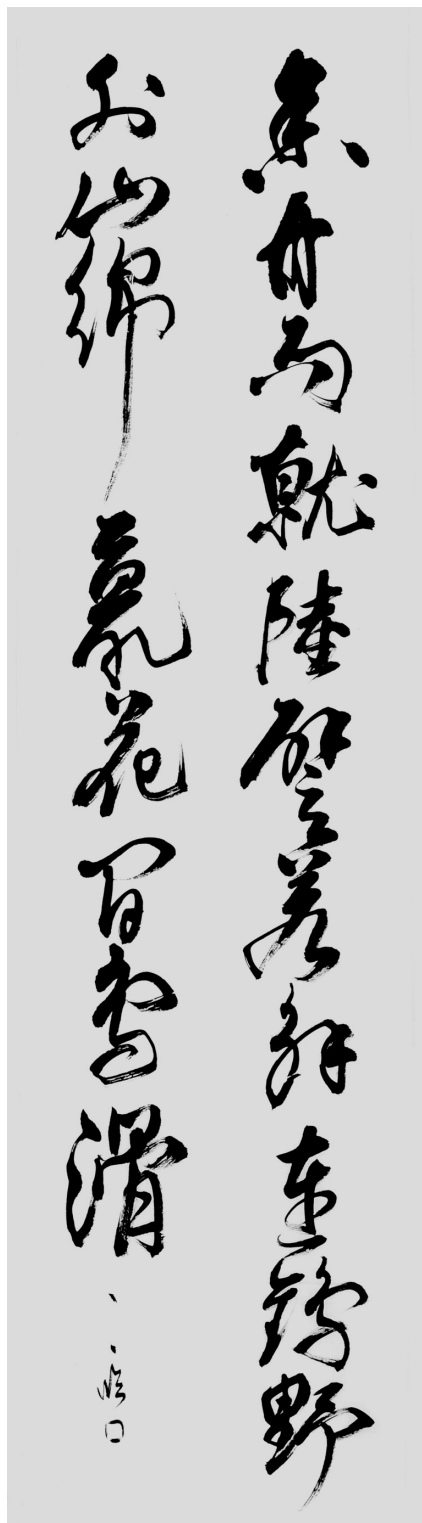
汗漫亦殊樂

誰為七聖迷

元璐



舟を捨てて陸に就くは



舟を捨てて陸に就くは

譬えば連雞を解くが若し

野外

山は綿蕞

花間

鳥は滑

(稽)

明末清初 倪元璐・舍舟五律

倪元璐（一五九三〜一六四四）は、字は玉汝、号は鴻寶、浙江上虞の出身。天啓二年（一六二二）には黃道周、王鐸らと共に進士に及第した俊秀であった。崇禎のはじめに魏忠賢の遺党である楊維垣を抗疏することによって、周囲からの人望を集め、国子祭酒となった。官は戸部尚書に至り翰林院学士を兼ねるほどであった。

しかし、毅宗天皇が自殺して明が滅亡するや、自ら首をくくり国に殉じた。宰相の才を備えることされた英傑忠節の士であったが、詩文書画にも長じ、その書は雄渾で魄力があり、しかもその中に忠義の気性が溢れでた。その気骨の強さと超俗の韻致は何よりもその高節な人格から出ていると評価を受け、その残された書画を人々は争って宝にしたということがある。

書家、倪元璐は明末清初に輩出した行草体の名手の一人として有名であるが、残念ながら伝出している作品は少ない。同時代の張瑞図に比較すると運筆が難解であったり、王鐸のように派手さがなかったために、初学の私共にとって学びにくい点も多々あるが、やたらと連綿線を用いず文字と文字との間合いを効果的に取っている点、それでいて興に乗じた軽やかで鋭い運筆、右上がりになる字形の特徴など限らない勉学の可能性が感じられる。

7月25日正午必着

教育部毛筆

山青
脈い

あお さんみゃく
青い山脈

中学一年

雨宮春聲先生書

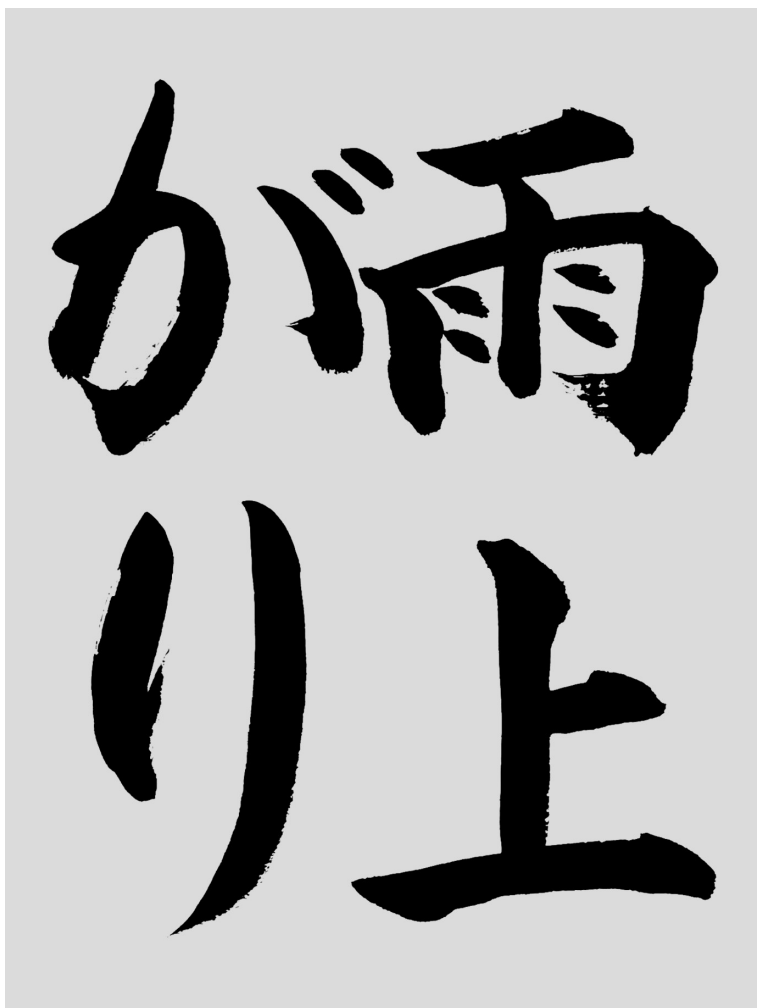
旅外
行国

がい こく りょ こう
外国旅行

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



あめ あ
雨 上 が り

小学五年

榎戸春龍先生書



ゆた ころ
豊 かな 心

小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着



藤田幸春先生書

ほ ら ^{がい}貝

小学三年



細谷春誠先生書

た き の ^{おと}音

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

や ね 小学一年・幼年



森戸春濤書

ゆ か た 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

太陽が地平線のかな
たにしずむところだ

小学五年

森のおくに樹液に集
まるかぶと虫が住む

小学六年

自然を守ることは人
間自身のためである

中学

緑の木々の美しさと川
のせしぎに癒される

一般(級位)

むらさきの雲の林を見わたせば法にあふちの花咲きにけり
は法にあふちの花咲きにけり

一般(段位)

むらさきの雲の林を見わたせば法にあふちの花咲きにけり(新古今和歌集・肥後)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。

また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

を	せ
	ん
し	こ
ま	う
し	は
た	な
	び

幼 年

し	い
っ	な
て	ず
雨	ま
が	が
ふ	
る	は

小学一年

み	七
つ	星
け	て
ま	ん
し	と
た	う
	を

小学二年

ぽ	こ
ん	ん
の	虫
足	に
が	は
あ	
る	六

小学三年

な	黒
ち	と
よ	黄
う	色
ち	の
よ	あ
を	ざ
見	や
た	か

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

八重椿

つぎくはな

あはぬ日数を美しくする

清水比庵



八重椿 つぎくはな
さきつぎて あはぬ日数を美しくする
（清水比庵）

岩本景楓先生書